

# グリーンサイエンス21便り (21)



## 都会の真ん中で大庭園を堪能

川路倭子(かわじ・しずこ)文京ボランテニア

今回、私が、故郷の博多から上京して55年間住んでいる小石川の近所の庭園「占春園」と「小石川植物園」の紹介をしたいと思います。

「占春園」は、東京メトロ丸の内線「茗荷谷駅」より徒歩5分にあります。水戸徳川家2代光圀の弟松平頼元が万治2年にここに屋敷を構えた。その子頼貞は陸奥国守山藩主として2万石を領した。この松平家の屋敷内の庭園の名残でありホトトギスの名所として知られていた。

明治時代には、東京高等師範学校(現在の筑波大学)の一部だったが現在は筑波大学付属小学校の

自然観察園として管理されており一般にも公開されている。土地の高低差を生かした園内には様々な樹木が生い茂り、細かい階段状の園路が池に向かって下っており静かな情緒を感じさせる。東側の低地にある広場には、見事な枝ぶりのカツラの木が3本植わっており、教育の森公園側の入口近くには日本では珍しいシロマツやダイショウマツを見ることが出来る。(文京区公式ホームページより)

つい最近まで、山吹の花が咲きほこりウグイスの美しい鳴き声も聞くことが出来ました。山吹は散り、これからは、あやめやつつじや紫陽花が、次々と楽しませてく

れる事でしょう。

「小石川植物園」、正式には東京大学大学院理学系研究科附属植物園とい植物学の研究・教育を目的とする東京大学の附属施設です。日本最古の近代植物園であり貞享元年(1684)に徳川幕府が設けた「小石川植物園」がその前身です。面積は約16万㎡で、変化に富んだ地形を利用して多様な植物が配置されています。

日本の近代植物学発祥の地でもあり、今日も自然史を中心とした植物学の研究・教育が行われています。園内には長い歴史を物語る数多くの由緒ある植物や遺構が残されており平成24年に国の名勝および史跡に指定されました。

私は年間利用できるパスポートを購入(二千五百円)して、度々入園しています。春に先がけて咲く梅林は「長寿」と名付けられた花を先頭に次々と素敵な品種名の花が開き、終り頃は「楊貴妃」という品種の花が咲きほこります。

桜の花も素敵な品種名の花が咲き長い間楽しむことが出来ます。次々と、藤の花やつつじが咲き、いつ行っても色々な花を楽しむ事が出来ます。野鳥もたくさん鳴いています。ウグイスの声も聞きました。園の中は土と落葉や草で、高級な絨毯の上を歩くような心地良さです。蝶が舞い、大変平和で幸せな大切な時間を過ごす事が出来ます。この素晴らしい環境に感謝するばかりです。

東京へお出かけの際、一度、訪問されは、如何でしょうか。



小石川植物園の案内図より